11/10 赤旗

物価高

コロナ禍より苦しい

ひとり親家庭調査

物価高による、ひとり親家庭への影響について、ひとり親家庭を支援する民間団体でつくる「シングルマザーサポート団体全国協議会」（赤石早衣子代表）は9日、調査結果を公表しました。深刻な困窮が浮き彫りになりました。

調査は10月18～30日、同会の所属団体の会員を対象にウェブで行いました。有効回答数は2767人です。

「主食が買えないことがあった」は56％、「子どもの靴や衣類を買えないことがあった」は78％、「暖房を入れない」は69％にも上りました。

物価高の家計への影響はコロナ禍より大きいと答えた人は61％。「収入が減った」47％、「変わらない」47％となる一方、「支出が増えた」は76％に上りました。

会見で赤石代表は「物価高で、ひとり親家庭は甚大（じんだい）な影響を被っている」と発言。「しんぐるまざあず・ふぉーらむ北海道」の平井照枝代表は、氷点下になる北海道でも「暖房を使わない」という回答も多く、深刻な健康被害を及ぼすとして「何とか、この冬を越え、春を迎えられる支援を」と訴えました。

アンケートには「ここまで普通の生活にお金がかかると、高校に進学させられるか不安でたまらない。死んだら楽かなって毎日思って生きています」といった悲痛な叫びが多数集まっています。

政府への要望として、児童扶養手当の所得制限の引き上げ、児童手当の対象を高校生まで広げる、給食費や高等教育の無償化など、政策改善を求める声が寄せられています。